

令和 4 年度 県立麻生高等学校自己評価表

目指す学校像	確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身の育成と常に変化する社会に対応できる能力と創造力を養うとともに、生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に捉えた進路希望の実現を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
昨年度の生徒による学校評価アンケート（５段階）の結果を分析すると、学校全体では「学習指導」の２つの項目で評価が向上している。【授業の内容や進み具合は適切である】（R1 平均 3.79・R2 平均 3.91・R3 平均 3.94）、【生徒が主体的に考える時間が設けられている】（R1 平均 3.98、R2 平均 4.02、R3 平均 4.07）。これは、ICT を活用した授業の取り組みの成果が表れていると考えられる。昨年度に引き続き２年生（現３年生）だけは評価が低下している。教師間で相互授業参観等を行い、分かりやすい授業に努め、生徒の学習意欲の向上に向けた更なる取り組みが必要である。中学校と連携し、ICT 等を活用した、授業の工夫に努め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善により、生徒の学習意欲のさらなる向上に取り組む。また、教師の業務内容を精選し、生徒の学力向上のための時間を捻出する。 コロナ禍により、各種進路行事が中止、延期となるなか、進学率 82.7％で、大学と短大進学者が増加した。私立大総合型選抜合格者は前年度とほぼ同じであったが、指定校・公募推薦と、一般での合格総数が国公立も含めて 46 名（昨年は 29 名）と大幅に増加した。一般入試については、共通テスト利用などさまざまな入試方向を活用し、最後まであきらめずに第一志望を複数回受験する傾向が続いている。比例して、就職希望者は減少しているが、内定率は 100％を達成できている。 生徒の規範意識は高く、学校全体に学ぶ場としてふさわしい落ち着いた雰囲気形成され、安心安全な学校が確立できている。しかし、校外において自律心に欠ける行動が時折見られ、交通ルール及び交通マナーの遵守に不徹底があり、登下校時に事故が発生している。 昨年度は、新型コロナウイルス感染症のため文化祭等の学校行事が中止、または縮小になったが、生徒会を中心に意欲的に学校行事に取り組む姿勢は見られる。感染症対策を徹底しながら活発な部活動が行われており、生徒の身体的精神的成長につながっている。新型コロナウイルス感染症によりボランティア活動等に参加する機会がほとんど無かった。ボランティア活動等、社会的な活動への積極的な参加を促進し、生徒による自発的、自主的な取り組みを促す。	I ICT 教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。	① 授業交換の徹底及び終始時刻の厳守により、授業時間の確保と適切な指導の強化を図る。 ② 日々の授業の他、ブライトタイムや補習等を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得に努めるとともに、これからの時代に求められる読解力や思考力・判断力・表現力を養い、確かな学力の定着を図る。 ③ 生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等に対応して、個に応じた指導の充実に努めることで、分かる授業を実践し、学習意欲の向上に努める。 ④ 家庭学習の習慣化を図るために、週末課題等を通して各教科で連携し、学習指導の工夫・改善に努める。 ⑤ 生徒の確かな学力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めるとともに、教科内で授業参観を積極的に行うなど、授業の質の向上を図る。	B
	II キャリア教育の推進と情報モラル教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。	① 早期から自分の能力・適性や進路について考え、進路を主体的に選択する能力を育成する。 ② 実践的・体験的な活動やキャリアカウンセリングを通して、望ましい勤労観・職業観を養う。 ③ 生徒一人ひとりの進路希望に応じた個別指導を充実させ、生徒の自己実現を図る。 ④ 教科指導に ICT を活用し、学習に対する興味・関心・理解を促す。 ⑤ 情報モラル教育を推進し、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度を育成する。 ⑥ ホームルームや生徒会活動及び社会的活動を通して、人間としてのあり方生き方に関する教育を推進するとともに、生徒一人一人が自らの変容や成長を自己評価できるよう「キャリア・パスポート」を促進する。 ⑦ 広い視野から郷土・国家、国際社会を理解する教育を推進し、グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意欲を持った人材（グローバル人材）の育成を図る。	A
	III 健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。	① 学校教育活動全体を通して体育・スポーツ活動を充実することで体力の向上を図るとともに、変化の激しい時代を生き抜くために必要な強い精神力を涵養する。 ② 学校教育活動の一環として望ましい部活動の充実に努め、生徒の基礎体力を錬成する。 ③ 学校保健教育を充実し、健康の保持増進のための自己管理能力を育てる。 ④ 全職員の共通理解と協力の下、家庭、関係機関、諸団体との連携を密にして、生徒一人ひとりをよく理解し、個々に応じた生徒指導の充実に努める。 ⑤ 指導が必要と認められる状況においても、決して体罰（暴言も含	A

別紙様式2（高）

活発な部活指導、スクールバス運行管理に時間を取られる傾向がある。超過しての勤務が多い教職員には、管理職との面談を通して、時間外勤務の改善を図っている。職員室等の整理整頓を推進し、働きやすい職場環境の構築を進め、業務内容の見直しや教材の共有化など、校務の効率化を図り、勤務時間の自己管理を通して、ワークライフバランスを確立する必要がある。			む) によることなく、生徒の規範意識や社会性の育成を図るよう、適切に指導する。 ⑥ 全ての生徒がいじめを行わず、また、いじめを認識しながらこれを放置することがないよう、いじめの防止のための対策を講じ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける。 ⑦ 情操を高める学習環境を目指し、清掃の徹底と美化に努める。 ⑧ 学校環境の安全点検を強化するとともに、安全教育を実施し、事故の未然防止に努める。特に、スクールバスによる通学の利便性を図るとともに、交通安全の指導を充実して交通事故の撲滅を目指す。		
		IV 地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。	① 地域の人的・物的資源を活用し、家庭・地域と協働した特色ある学校づくりを推進する。 ② 地域の小中学校との連携と協働を進め、地域の小・中学生から選ばれる学校づくりに努める。 ③ 教育活動を積極的に情報発信し、地域から評価される学校づくりに努める。		A
		V 学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。	① 学校行事や部活動、学校運営等の見直しを図り、適正な時間内での業務運営に努める。 ② きんむくんによる勤務時間の管理を図り、超過勤務時間の削減に努める。 ③ 職員室等の整理整頓を推進し、働きやすい職場環境づくりをする。		B
三つの方針		具体的目標		評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	意欲を持って学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身に付け、社会のリーダーとして貢献できる人材の育成 ・至誠勤勉：何事にも誠実に一生懸命取り組むことができる ・自治剛健：強い心を持ち、物事を自らの意志により実行することができる ・和衷協同：目標達成のために、仲間を認め協力し合うことができる		A	自己の将来を見すえた望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に据えた進路希望の実現。 ・ICT教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。 ・キャリア教育の推進と情報モラル教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。 ・健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。 ・地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある学校づくりを推進する。 ・学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境		A	教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制を構築

別紙様式 2 (高)

			作りに努める。			
		「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自らの学習活動ばかりではなく、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒。	A		入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像の明示
評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上	漢字・語彙などの学習の基礎基本となる内容について、小テストを実施する。Ⅰ②③	A	A	・ICT機器の積極的な活用をすすめる。 ・新課程科目について研究し、共有して指導に生かす。
		家庭学習の充実と習慣化	課題を提示し、家庭学習の習慣を定着させる。（提出率90%以上） 定期考査や模試結果を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を支援する。Ⅰ①②③④	A		
		希望進路実現に向けた国語力の伸長	授業・定期考査・各種模試結果を分析し、指導方法を研究する。授業・課外・課題（自学）により生徒の総合的な学力と論理的思考力、表現力の向上を図る。Ⅰ②③④⑤Ⅱ④	B		
	地歴・公民	基礎知識の習得と思考力の研磨	ICT教育を充実させ、調査・探求や討論を通じ、基本的な知識の習得とその基盤の上に立つ思考力を育てる。Ⅰ⑤	A	A	・ICT教育への理解を高めるために、教科内外での研修を実施する。 ・新課程科目について研究し、共有して指導に生かす。
			課題の実施など、家庭学習の充実をはかるような工夫を行う。Ⅰ④	A		
		生徒の自己実現のための支援	進学希望者をはじめ、あらゆる進路希望に対応できるよう、課外授業等のカリキュラムの充実をはかる。Ⅰ③	B		
			租税教室など、社会の仕組みを理解させ、また実社会でも応用できる知識習を習得させる。Ⅱ②	A		
	数学	基礎学力の向上	教科書・問題集の基本問題を繰り返し解くことによって、基礎学力・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。Ⅰ①③	B	B	ICTを用いて生徒の活動をより細かく捉える。知的好奇心が芽生えるような授業を展開することで自主学習の習慣化を促す。
		論理的に思考・判断・表現する力の育成	授業でICTを活用するなどして主体的・対話的な学習活動を行ったり、教科書・問題集の応用問題を解いたりすることによって、論理的に考え、理由を付けて説明することができる能力を育成する。Ⅱ④	A		
		自主学習の習慣化	週末課題を課すことによって、自主的な学習の習慣化を図る。Ⅰ②④	B		
	理科	基礎学力の向上	生徒の実態に合わせて、中学校の既習事項を踏まえつつ指導にあたる。また問題演習、学習課題を繰り返し行うことにより、基本的な学力の定着をはかる。Ⅰ①②④	A	B	複数学年に対する観点別評価の導入にあわせ、授業方法だけでなく課題提出や、事後アンケートにおいて積極的なICT導入が求められる。
		生きる力を支える確かな学力の育成	実験・観察により技能を習得させながら、事象を実証的・論理的に考え、事実に基づいて判断し、表現する力を培う。Ⅰ②③⑤	A		
			ICTを積極的に利用し、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒の能動的な学習をサポートする。Ⅰ②③⑤	B		
		自然の事物・現象を科学的に探究する資質能力の育成	生徒自身が調べるテーマを選択し、理科で学んだ科学現象を用いながらそれらの現象・事象が起こる理由を考える。Ⅰ②③④Ⅲ⑧	B		
	保健体育	運動技能を高めて生涯にわたり運動に親しむ資質や能力の育成	球技：基本技能を身に付け、自他協力により安全にゲームが展開できるようにさせる。Ⅰ②	B	A	ゲームに近い形でスキルが向上できるような内容・時間設定を検討
集団行動：公正・協力・責任の態度を育てる。Ⅰ⑤			A			
選択授業の展開：多様なスポーツとの関わりからそれぞれの生涯スポーツを獲得する。Ⅰ③			A			
生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成		日常生活から健康問題を考える意識を持たせる。Ⅲ③	A			
		健康的な生活習慣を身につけ、生活環境を守るための知識と能力を高める。Ⅰ②	A			
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い活動を通し、芸術文化をより深く理解し、愛好する心情を育てる。Ⅰ②③⑤Ⅱ④	B	B	作品を制作・演奏する表現の分野だけでなく、鑑賞の分野で特にICT機器が必要にな	
	芸術の諸能力の伸長及び豊かな情操	多くの作品に触れ感性を磨き、自らの意図に基づいて表現できるような指導に努める。	B			

別紙様式2 (高)

外国語	の養成		I ②③⑤Ⅱ④		B	ってくるので整備を急ぎたい。		
		個別指導を充実させ、技術の向上を図る。	I ②③Ⅱ③	A				
	基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	小テスト等を利用して生徒の理解度を把握し、不十分な生徒を個別指導する。	I ②③	A		・授業等での ICT の効果的な活用を図る。 ・基礎学力と入試に対応した学力の養成を図る。		
		予習復習や定期的な課題等を課して、家庭学習を定着させる。	I ③④	B				
	授業の創意工夫	ALT とのティームティーチングの授業を通してコミュニケーション活動の充実を図る	I ⑤	B				
		意欲・関心を高め、豊かな人間性を培えるような教材を精選する。	I ②③	B				
		互いに授業を公開し、授業内容・教授法等について教科内で研究協議する。	I ⑤	B				
	家庭	基本的な生活力の向上	ICT 機器を効果的に活用し生徒の実態に応じた教材を取り入れることによって、基礎的・基本的な知識・技能の習得をはかる。	I ②Ⅱ④		A	A	・実験・実習の時間を計画的に設けて生徒の興味・関心のより一層の涵養を目指す。
		課題解決能力の育成	日常生活の充実向上について考え、課題を見だし、改善・解決を目指す態度を育成する。	I ⑤		A		
		学習環境の整備と事故防止の推進	実験実習時の身支度や手洗い等の指導を徹底し、衛生面・安全面に配慮させる。実習室の安全管理に努める。	Ⅱ②		B		
	情報	P C 技能の向上	文書作成及び表計算処理能力の向上に努め、検定合格による資格取得を目指す。	I ④Ⅱ④		B	B	・P-STUDY の導入により、自主的な学びの取組ができるようになった。プログラミングの単元においても容易にあつかうことができるようになった。今後も、P-STUDY の効果的な利用方法を検討したい。 ・次年度の「情報演習」では、1 年間通して Python によるプログラミングを実施してみたい。
		コミュニケーション能力の向上	プレゼンテーション等を行い、個人の考えや意図を相手に的確に伝える能力の向上に努める。	I ⑤Ⅳ③		B		
			電子メールや SNS の使用方法や注意事項を理解し、情報の受発信の技能を習得する。	Ⅱ⑤		B		
		情報モラルの理解と実践	著作権の尊重・情報発信者の責任など、守るべき規則及びその背景について生徒に考えさせ、情報モラルの理解と実践を図る。	Ⅱ⑤⑦		A		
教務	授業時間の確保	授業開始・終了時刻を厳守する。	I ①	A	A	ホームページを全職員が更新できるよう研修等を行い、ホームページの充実に努める。 ICT 支援員と協力をし、より ICT を利用した授業を展開できるようにする。また、校務で ICT を利用するよう計画することで、校務の中で研修を実施していく。		
		授業交換は単独授業では 100%実施し、同時展開の授業でも出来るだけ実施する。	I ①	A				
	カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成・実践	現教育課程が生徒の実態に適しているか検討する。	I ②⑤Ⅱ⑦	B				
		教科のグランドデザインに即した資質・能力の育成を図る。	I ②③④⑤Ⅱ④	A				
		新たな観点別評価の徹底を図る。	I ②⑤	B				
	指導方法の研究・改善	生徒が主体的・対話的に学ぶ授業の指導方法について研究・改善に努める。	I ⑤	A				
		授業参観・職員研修の実施や ICT・グループワークの導入による授業の質の向上を図る。	I ⑤Ⅱ④	A				
	図書室の利用と読書指導の推進	広報活動を行い、図書室の利用促進および一人一人の読書量の増大に繋げる。	Ⅱ①⑦	A				
	情報及び情報機器の管理	所有するハードウェア・ソフトウェア、およびデータの管理を厳に行う。	Ⅱ④⑤Ⅴ③	A				
		ICT 係を中心として、ICT 支援員と連携し、授業や業務の改善を図る。	I ⑤Ⅱ④Ⅴ①	A				
広報活動の充実	ホームページを充実させ、本校の教育活動を積極的に広報する。	Ⅴ③	B					
生徒指導	基本的生活習慣の確立	おはよう運動（登校指導）を通じて、挨拶の励行を図るとともに遅刻防止に努める。	Ⅲ①	A	A	・生徒の落ち着いた生活態度の継続を図る。 ・生徒のマナー、エチケット等の指導を継続し、身だしなみの徹底を図る。		
		全職員がチャイムで始まりチャイムで終わる授業を実践することで、生徒の時間厳守の行動を養う。	I ①	A				
	生徒理解	学校生活全般において生徒一人ひとりをよく理解し、適切な信頼関係を築く。適宜、個人面談・教育相談等を行う。	Ⅲ⑦	A				

別紙様式 2 (高)

	体罰によらない指導の徹底	指導が必要な状況においても、決して体罰によることなく、適切に指導する。Ⅲ②	A		・より元気な挨拶の実施に向けた支援に努める。
	服装頭髮指導の徹底	全職員の共通理解の下、おはよう運動及び毎月服装頭髮指導を実施する。Ⅲ①	A		
	規範意識の高揚	全校集会・学年集会・LHR・授業等を活用し、社会規範意識の高揚に努める。Ⅲ⑧	A		
	いじめを許さない学校づくりの推進	休み時間や昼休みに教室巡回を行うなどして、生徒観察に努め、いじめの未然防止に努める。Ⅲ③	B		
	交通安全教育の徹底	校外での交通指導を隔月 1 回実施するとともに、交通講話・バイク通学許可説明会・教習所入所説明会・バイク実技講習会等を通じて、交通法規の遵守及び交通安全の意識の高揚を図る。Ⅳ⑤	A		
		交通法規の遵守について、全校集会・学年集会・LHR を活用し、継続的な指導を行う。Ⅳ⑤	B		
	教室環境整備の徹底	掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓、学ぶ場としてふさわしい教室環境の整備を徹底する。Ⅳ④	B		
進路指導	進学指導体制の充実	生徒一人一人、個に応じた進路指導・進路実現の支援体制の充実を図り、国公立大学 10 名、私立大学 100 名、就職希望者全員の合格・内定を目指す。Ⅱ②③	B	A	・生徒の進路実現に向けて、各学年と情報共有を密に行い、早期からの意識付けを図る。 ・地域の方々や卒業生など、外部の人たちとも交流し、進路について多面的な視点を持てるよう努める。 ・ICT 機器を積極的に活用した進路指導を行う。
	課外指導等の充実	進学希望者への平常課外や長期休業中の課外等に積極的に参加を促す。Ⅰ②③	A		
		平常課外、長期休業中の課外の充実を図り、授業と連動させることで学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。Ⅱ③	B		
	進路講演会等の実施と進路意識の高揚	進路講演会等を通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。Ⅱ②Ⅳ①	A		
		HR・総合的な探究の時間等を利用し、自己理解、職業・学部学科研究を行い、自己実現に向けた進路意識の高揚を図る。Ⅱ①②	A		
	進路指導内容・環境の充実	教員全員体制での面接指導により、面接試験に柔軟に対応できるように多面的な視点からの指導を行う。Ⅱ③	A		
		進路希望に応じた校外模擬試験等を計画的に実施し、その結果を振り返りながら定期考査を含めて達成状況に応じた次の指導に活かす。Ⅰ②	B		
		茨城大学等の大学説明会や見学会に積極的に参加させ、志望校決定の際の一助とする。Ⅱ②	A		
		ICT の活用を通して、精選した最新の進路情報を提供し、進路実現に向けて適切に活用できるように指導を行う。Ⅱ④⑤	A		
		3 年にわたる系統的かつ具体的な進路指導計画を策定する。Ⅱ①②③	B		
		進路閲覧室・実現室の環境整備を行い、効果的で利用度の高い進路指導環境を整備する。Ⅱ③	A		
		出前授業、卒業生の講演会、ガイダンス等を実施し、進路情報の提供に努める。Ⅱ①	B		
特別活動	社会性・人間性を高める活動への参加支援と「キャリア・パスポート」の推進	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を促し、地域社会との交流を図る。Ⅲ⑦⑧	B	B	・新型コロナウイルス感染症対策に留意し、行事の計画を図る。 ・行事や部活動での生徒の主体的な活動を促し、生徒の自治的活動の浸透を図る。
		生徒の成長と自己実現につながるよう「キャリア・パスポート」への取り組みを充実させる。Ⅲ⑦	B		
	人間的触れ合いを基盤とした自主的自治的活動の推進	球技大会や文化祭を通して生徒同士の触れ合いを図る。その際感染症対策に十分留意して計画を立てる。Ⅲ⑦⑧	A		
		ホームルームや生徒会活動を通して、自主的・自治的活動の活性化を図る。Ⅲ⑦	B		
	部活動の活性化	部活動を通して、健全な身体的精神的成長を図る。Ⅲ⑦Ⅳ①②	A		
		生徒の自主的・自発的な部活動を支援する。Ⅲ⑦	A		
保健安全	健康の把握と増進	性に関する講演会など、専門家による健康教育を実施する。新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組む。Ⅳ①	A	A	・新入生の早い時期でのエンカウンター（人間関係作り）を

別紙様式 2 (高)

	教育相談の充実	定期健康検診の全員実施に努める。Ⅲ③	A		はじめとして教育相談のより一層の充実を目指す。 ・学校美化に取り組み、より良い学校環境を保つ。
		養護教諭・教育相談係・スクールカウンセラーを中心に、学年とも連携して相談活動を充実させ、迅速かつ適切な対応を目指す。Ⅲ④⑤⑥	B		
		スクールカウンセラーによる教職員研修を実施する。Ⅲ④	A		
	安全教育の推進	防災訓練を実施し防災意識の高揚を図る。安全点検の実施で校内の危険予防を図る。Ⅲ⑧	B		
		AED講習会を実施し、緊急時に備える。Ⅲ⑧	A		
	環境整備美化の推進	毎日の清掃指導の徹底やワックスがけの実施で校内美化に努める。Ⅲ⑦	B		
		清掃用具点検を実施して、清掃活動の充実を図る。Ⅲ⑦	A		
渉外	後援会活動の充実	役員と職員との連携を深め、総会などの事業について最善の形態を模索し、活性化を図れるよう努める。Ⅲ①Ⅴ①③	B	B	生徒のニーズを把握し、それに対応した行事の企画運営を検討する。
	保護者・地域との連携強化	保護者と職員とが参加する研修や行事等について最善の形態を模索し、良好な関係の形成に努める。Ⅴ①	B		
	生徒の通学や学習環境の充実	後援会が運営するスクールバスや空調設備などについて、適正および円滑な活用に努める。Ⅲ⑧Ⅳ①	A		
1 学年	目的意識を持った高校生活の確立	全生徒が部活動や課外授業へ積極的に参加する。Ⅰ②Ⅳ②	A	A	・進路に向けての目的意識をより高めていく。 ・服装や挨拶、時間厳守の徹底。 ・ICTを利用した課題取り組みの継続。
		高校生活の目的意識を高め、充実した高校生活を送る。Ⅱ①③	A		
	基本的生活習慣の確立	頭髮服装指導を徹底する。Ⅲ①	A		
		挨拶を励行し、時間の厳守に努め、清掃を徹底する。Ⅲ①	A		
	進路目標の早期明確化	進路達成プログラムを活用して自己理解や職業理解を深め、具体的な進路目標を持てるように促す。Ⅱ①②	A		
	基礎学力の定着と進路を見据えた学習指導の充実	ICTを活用した課題を提示することにより家庭学習（120分以上）を充実させる。Ⅰ④	A		
		英検・漢検・数検等の資格取得を推進する。大学受験を意識して、全国模試に取り組ませる。Ⅰ②	A		
2 学年	目的意識を持った高校生活の確立	部活動や課外授業への参加を奨励し、年間を通じて継続させる。Ⅰ②Ⅲ①②	A	A	個別面談の充実など個に応じた進路指導を行い、進路実現を図る。 多様な入試形態に対応できる学力の向上を図る。 実社会で生き抜く力を育む。
		中心学年として、学校行事への積極的な参加を促す。Ⅱ⑥	A		
	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、時間の厳守、および清掃の徹底を図る。Ⅰ①Ⅲ⑦	A		
		服装や頭髮の指導を徹底する。Ⅲ④⑤Ⅳ②	A		
	具体的な進路を見据えた学習	週末課題やブライタイム等を活用しながら、基礎学力と家庭学習習慣の定着を図る。Ⅰ④	A		
		課外授業を充実させ、学力の向上を図る。Ⅰ②	B		
		早期に志望進路を明確にさせる。Ⅱ①③	A		
		英検、漢検、数検等の資格取得を推進する。Ⅰ②	B		
3 学年	幅広い学習ニーズに対応した希望進路実現の支援	個別面談を充実させ、個に応じた学習、生活、進路指導を図る。Ⅰ③Ⅱ①③⑥	A	A	生徒の学力、進路希望に応じた、きめ細やかな進路指導の継続。 集団生活の規範意識を常に高めるよう指導に努める。
		進路別各種説明会、公務員講座、看護ガイダンス等を活用し、具体的進路実現に対する意識の向上を図る。Ⅱ①②③	A		
	基礎学力の向上	模擬試験の活用その他、課外授業、ブライタイム、特別編成授業を充実させ、多様な入試形態に対応できる学力を育成する。Ⅰ②③④	A		
		公務員模試、就職模試、看護模試等の活用により、多様な進路に適応できる基礎学力の定着を図る。Ⅰ③Ⅱ①②	A		
	基本的生活習慣の確立	服装容儀指導を中心に、進学、就職を見据えての規範やマナー意識の向上に努める。Ⅲ⑤	B		
		個別面談や被害調査等を活用し、各関係校務分掌と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止に努める。Ⅲ④⑤⑥	A		

別紙様式 2 (高)

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できてない